

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

ドル/円相場は、来年以降に向けた長期ドル安トレンドにある中、しばらくは105円～115円のレンジ相場を続けていくものと考えてきましたが、レンジを切り下げ100円を試すリスクを警戒すべき相場環境となってきています。

【ドル/円 週足】



2012年から続いてきた長期ドル高・円安トレンドが、今年に入ってそれが終了したと判断し、調整の長期ドル安トレンドに入ったものの、5月3日の105円台への下落で一旦下げ止まり、反発することで105円～115円のレンジ相場継続をこれまでのメインシナリオとしてきました。

しかし、米国の早期利上げ観測の後退と英国の欧州連合（EU）離脱をめぐる不透明感が市場のリスク回避意識を高め、ドル/円相場は再び105円台へと下落する動きとなっています。

英国の国民投票の結果、EU離脱となれば、もちろん円高が進み100円を試す動きが予想されますが、投票前の不安定な相場のなか投機筋の仕掛けによって105円を下抜けてしまった場合にもドル/円の下落加速の可能性が考えられます。

国民投票まで105円が支えられ、EU残留という結果となれば現状の105円～115円のレンジ相場が続きそうであり、これをメインシナリオとすることに変化ありませんが、当面はドル下抜けリスクへも警戒することが必要な状況といえるでしょう。

ドル/円相場のトレード戦略

仮に EU 離脱で円急騰となった場合には、日銀による市場介入の可能性は高く、ドル/円の下値は 100 円レベルまでと想定します。

■ 短期展望

6月3日発表の米雇用統計の結果を受けて米国の6月利上げ見送りが確実となったこと、英国の世論調査で EU 離脱の可能性が出てきたことなどによりドルは 105 円台まで下押ししてきました。

しかし、英国の国民投票を前にポジション調整の可能性があること、今週の日銀金融政策決定会合で追加緩和を期待する向きがあることなどによりドル/円の下値は支えられ目先は 105 円を維持するものと考えます。

ただし、ドルの上値も確実に重くなってきており既に 108 円台ではドル売りも厚いことから、英国の国民投票までは 105 円～108 円での取引を想定します。

リスクシナリオとしては、英国の EU 離脱を材料とした投機筋の仕掛けにより 105 円を割り込むことで、その場合ではドル安が加速する可能性も考えられ、警戒しておく必要があると考えます。